

所 報

2010. 1~12

2010年1月から12月までの社会科学研究所の活動は以下のとおりである。

1. 機構及び人事

1. 定例所員総会

- (1) 第95回定例所員総会 2010年5月29日(土) 14:30~17:50 生田92B会議室
定例所員総会成立要件の確認(所員有効総数158名中、過半を超える出席24名+委任状91通で総会成立)、まず町田俊彦所長の挨拶に続き、泉武夫所員(経)を議長に選出し、(1)新所員等の委嘱について(2)2009年度活動報告、決算報告、(3)2010年度事業計画案、予算案(4)その他を討議し、2009年度活動報告・決算報告、2010年度事業計画案・2010年度予算案が承認される
- (2) 第96回定例所員総会 2010年11月27日(土) 13:00~15:20 生田社研会議室
定例所員総会成立要件の確認(所員有効総数166名中、過半を超える出席15名+委任状110通で総会成立)、広瀬裕子所員(法)を議長に選出し、まず次期所長選挙が行われ、町田俊彦現所長の再任が満場一致で可決。引き続き2010年度活動報告・会計報告と2011年度事業計画案・2011年度要求予算案が提出され、活発な討議を経ていずれも承認される。

2. 所員の異動

- (1) 所員の委嘱・解嘱
委嘱：小池隆生(経)・赤羽新太郎(商)・藤森研(文)・斉穎賢(人、社知セRA)・金井雅之(人)・永野由紀子(人)・藤原法子(人)・横山順一(社知セRA)・後藤吉彦(人)・金榮愨(経)
解嘱：小口登良(ご逝去、2010/02/19)・水川侑(定年退職)・ボレッタ-ウィリアム(定年退職)・唐鎌直義(退職)・新井範子(退職)・西村弘(ご逝去、2010/07/18)
- (2) 研究参与の委嘱・解嘱
委嘱：水川侑・ボレッタ-ウィリアム
解嘱：林 基(ご逝去、2010/11/18)
- (3) 所外研究員の委嘱・解嘱
委嘱：松下丈宏(経営兼任・首都大学)・荒井久夫(東京情報大学非常勤講師)・金光日・平井太郎(本学兼任講師)・唐鎌直義(本学非常勤講師)・John Gaal(Webster Univ.)・新井範子(本学非常勤講師)・清水強志(本学兼任講師)・増田純一(高崎商科大学非常勤講師)
解嘱：藤原法子(所員委嘱に伴う)
- (4) 特別研究員の委嘱・解嘱
委嘱：なし

解嘱：荒井久夫（本学大学院満期退学）・金光日（本学大学院修了）・斉穎賢（社知セRAへ）

3. 運営委員、会計監査、事務局員の委嘱

2010年度事務局体制

運営委員		事務局員	
所長	町田 俊彦（経）	事務局長	宮崎 晃臣（経）
事務局長	宮崎 晃臣（経）	財政	○永島 剛（経）
前事務局長	村上 俊介（経）	財政	清水 真志（経）
	原田 博夫（経）	研究会	○田中 隆之（経）
	白藤 博行（法）	研究会	兵頭 淳史（経）
	池本 正純（営）	研究会	佐藤康一郎（営）
	大西 勝明（商）	研究会	鈴木奈穂美（経）
	嶋根 克己（人）	編集	○福島 利夫（経）
		編集	前田 和實（商）
		編集	内藤 光博（法）
会計監査	永江 雅和（経）	編集	大矢根 淳（人）
		文献資料	○野部 公一（経）
		ホームページ	○高萩栄一郎（商）
		ホームページ	吉田 雅明（経）

2. 研究調査活動

1. 定例研究会

現在、研究会開催（および予定）は以下の通り。

- (1) 5月15日（土） 14時00分～18時00分 場所 神田校舎 13A会議室
 テーマ：「地方議会における政権交代の影響」
 報告者：田村 琢実氏（埼玉県議会議員）
- (2) 7月16日（金） 16時40分～18時10分 場所 生田校舎M969会議室
 テーマ：“Zemiological Perspective on Crime and Harm ”
 報告者：Christina Pantazis（ブリストル大学、本学経済学部客員教授）
- (3) 7月17日（土） 14時00分～17時00分 場所 神田校舎784教室
 テーマ：「米軍の実態—兵役制度を中心に—」
 報告者：清水 隆雄氏（元国立国会図書館専門調査員）
- (4) 7月20日（火） 14時00分～17時00分 場所 生田社研会議室
 夏季実態調査に向けての事前研究会
 テーマ：「汽車下郷と中国自動車産業の実態」
 報告者：中村 研二氏（アジア自動車産業経営戦略研究所代表）

- (5) 7月23日(金) 15時00分~19時00分 場所 生田校舎424教室
テーマ①:「中国の『アンドレ・バサン』と『ヌーヴェル・ヴァーグ』 -文化大革命終焉直後の中国におけるフランス映画文化の受容」
報告者:劉 文 兵氏(本学非常勤講師)
テーマ②:「ソランジュ・ブラン『北京1966』とその写真展について」
報告者:下澤 和義(本学商学部教授)
- (6) 9月25日(土) 14時00分~17時00分 場所 神田社研会議室
テーマ:「日本国憲法と先住権」
報告者:常本 照樹氏(北海道大学大学院教授・先住民族研究センター長)
- (7) 10月16日(土) 14時00分~17時00分 場所 神田校舎13A会議室
テーマ:「米軍の安全保障政策一史的展開一」
報告者:宮脇 岑生氏(元国立国会図書館副館長・元流通経済大学教授)
- (8) 12月9日(木) 17時00分~18時30分 場所 生田社研会議室
テーマ:アメリカ労働組合運動の動向
報告者:Dr. John Gaal(全米建設労組、ウェブスター大学)

2. シンポジウム

7月3日(土) 13時00分~17時00分 神田校舎13A教室:

主 催:専修大学社会科学研究所、同今村法律研究室、同法学研究所

共 催:日本学術会議日本の展望委員会

テーマ:21世紀日本における学術の展望

報告者:①広渡 清吾氏(本学法学部教授)「日本の展望-学術からの提言」

②海部 宣男氏(放送大学教授)「日本の科学・技術政策をどう展望するか」

③鷺谷いづみ氏(東京大学教授)「持続可能な世界をどのように構築するか」

④藤田 英典氏(立教大学教授)「21世紀の課題としての知と教養の再構築」

⑤大沢 真理氏(東京大学教授)「人間と人間の関係再構築と人文・社会科学の役割」

コメント:①福島 利夫(本学経済学部教授)

②坂本 武憲(本学法学部教授)

3. 特別研究会

毎年特別研究会として実態調査を夏および春の休暇中に実施している。その実態調査報告は月報に掲載。また今年度は檀国大学で開催された第3回合同研究会に4名の所員を派遣し、活発な研究交流を実現した。

2009年度春季実態調査:2010年3月15日(月)~3月17日(水)

15日:諫早市、たらみ小長井工場、諫早湾干拓地

16日:長崎市、長崎市役所、長崎船舶装備株式会社、三菱長崎機工株式会社

17日：三菱重工業長崎造船所史料館、端島（軍艦島）

2010年度夏季実態調査：2010年9月5日（日）～9月11日（土）

5日：成田空港発、上海経由合肥空港着。

6日：江淮汽車集团有限公司（国有独資自動車メーカー）工場見学、安徽省社会科学院訪問・交流。

7日：日立建機（中国）有限公司（日本日立建機株式会社、三菱商事、香港企業共同出資、外商独資建設機械メーカー）訪問、合肥經濟技術開發区訪問

8日：合肥駅発、漢口駅（武漢市）着、新幹線、研究会（会場：武漢マルコポーロホテル）
報告者 張忠任島根県立大学教授・中南財經大学（武漢市）客員教授、安井誠（みずほコーポレート銀行武漢支店長）、湯進（みずほ銀行国際営業部）

9日：武漢空港発、西安空港着、西安高度新技術産業開發区管理委員會訪問、西安大金慶安壓縮機有限公司（日本ダイキン工業と中国企業の合弁コンプレッサー企業）見学

10日：世界遺産・始皇帝兵馬俑・楊貴妃華清池・大雁塔見学

11日：西安空港発、北京経由成田空港着

第3回檀国大学との合同研究会：

日時：2010年10月8日（金）～10月10日（日）、檀国大学

参加者：町田俊彦（所員）、田中隆之（所員）、蔡イン錫（所員）、宮寄晃臣（所員）

報告：町田俊彦「民主党政権下の経済政策—税制改革を中心に—」

コメント：Kim Byung-Soon

田中隆之「非伝統的金融政策の効果について」

コメント：Shin Dong-Ryung

Keedong Yoo：MULTI-CRITERIA EVALUATION APPROACH FOR DETERMINING
THE VALUE OF INFORMATION AND KNOWLEDGE

コメント：蔡イン錫

Yeung-Jo Kim：Differential Weighting in Brand Extension Evaluation: The Role of
Process- vs.Outcome-Focus

コメント：蔡イン錫

総括コメント：宮寄晃臣

4. 研究助成

☆グループ研究助成A（4名以上・年50万円3年間・1名以上論文発表義務）

今年度は次の3件を助成した。（以下敬称略）

継続 2008年度発足

(1) 「『国家と宗教』問題の史的展開」

(堀江洋文〈責〉・村上俊介・砂山充子・仲川裕里の4名)

2009年度発足

(2) 「日本と中国の経済発展モデルの比較研究」

(稲田十一〈責〉・大橋英夫・田中隆之・宮寄晃臣の4名)

新規

(3) 「中国都市社会の変容に関する研究」

(柴田弘捷〈責〉・大矢根淳・嶋根克己・広田康生・馬場純子・永野由紀子・斉穎賢・横山順一・徐向東の9名)

☆グループ研究助成B (2名以上・年20万円1年間・年度初め定例総会にて研究経過報告義務)

今年度は下記5件を助成した。

(1) 「世界金融危機後におけるわが国金融システムの再編成」

(田中隆之〈責〉・遠山浩の2名)

(2) 「公共性をめぐる理論的研究」

(広瀬裕子〈責〉・榎透・荒井英治郎・松下丈宏の4名)

(3) 「ニュージーランドの議会改革と安全保障政策」

(藤本一美〈責〉・佐島直子の2名)

(4) 「辺野古新基地建設反対運動参加者のライフストーリーに関する社会学的研究」

(鐘ヶ江晴彦〈責〉・小峰直史・服部あさこの3名)

(5) 「紙の未来の制度的基盤を構想する」

(山田健太〈責〉・藤森研の2名)

☆特別研究助成 (5名以上・年100万円3年間・助成終了後2年以内に「社会科学研究叢書」刊行義務)

今年度は下記3件を助成した。

継続 2008年度発足

(1) 「東アジアの市民社会形成と人権・平和・共生」

(内藤光博〈責〉・白藤博行・古川純・石村修・内田弘・永島剛・黒瀬直宏・神原理・小林守・高橋誠の10名)

2009年度発足

(2) 「フランスと東アジア諸地域相互における近現代学芸の共同主観性に関する研究」

(鈴木健郎〈責〉・根岸徹郎・下澤和義・巖基珠・土屋昌明の5名)

新規

(3) 「若年・青年層の不安定就労ならびに社会保障制度の現状」

(宮寄晃臣〈責〉・町田俊彦・高橋祐吉・福島利夫・内山哲朗・永島剛・兵頭淳史・鈴木奈穂美・小池隆生・唐鎌直義の10名)

3. 『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

- (1) 4・5・6月(第562・563・564合併号)「専修大学社会科学研究所創立60周年記念号」
巻頭言…………… 町田 俊彦(所員)
専修大学社会科学研究所創立60周年記念檀国大学・専修大学合同研究会
「米主導のグローバル資本主義の終焉と日本経済」
…………… 宮寄 晃臣(所員)
『『日本の経営』の見直しと格差・貧困の諸相』… 福島 利夫(所員)
専修大学社会科学研究所創立60周年記念公開シンポジウム
第1回『資本論』から現代を読む
基調報告…………… 的場 昭弘(神奈川大学経済学部教授)
司会…………… 村上 俊介(所員)
コメント…………… 清水 真志(所員)・吉田 雅明(所員)
第2回 今日のパ困と『資本論』
基調報告…………… 伍賀 一道(金沢大学教授)
司会…………… 兵頭 淳史(所員)
コメント…………… 宮寄 晃臣(所員)・福島 利夫(所員)
- (2) 7月(第565号)「創業期三井物産の諸投資」…………… 麻島 昭一(参与)
- (3) 8・9月(第565・567合併号)「2009年度春季実態調査(長崎)特集号」
「長崎県、長崎市の経済」…………… 佐々木浩二(所員)
『『中核市』の人口・就業構造及び財政と長崎市』… 町田 俊彦(所員)
「地方自治体の中小企業政策に関する一考察
—長崎市の中小企業政策と関連させて—」
…………… 飯田 謙一(研究参与)
『『記憶』の無人島・軍艦島—廃鉱の島・長崎県端島—」
…………… 柴田 弘捷(所員)
「斜面都市・長崎のまちづくりの課題—1982年の長崎豪雨災害以降—」
…………… 福島 義和(所員)
- (4) 10月(第568号)「中国の『アンドレ・バサン』と『ヌーヴェル・ヴァーグ』
—文化大革命終焉直後の中国におけるフランス映画文化の受容」
…………… 劉 文 兵(本学非常勤講師)
「日本におけるルカーチ受容史概観」… 西角 純志(所外研究員)
- (5) 11月(第569号)「キリスト教原理主義とアメリカ政治」…………… 堀江 洋文(所員)
- (6) 12月(第570号)「ワーク・ライフ・バランス論における公共性概念の位置づけ」
…………… 鈴木奈穂美(所員)
「中国の対アフリカ援助における評価分析」
…………… 施 錦 芳(所外研究員)

4. 『社会科学年報』第44号の刊行 (2010年3月10日)

- 【論文】
- (1) 儀我壮一郎 (元研究参与) 「張学良少帥と日本」
 - (2) 高梨 健司 (所外研究員) 「片倉製糸の蚕種生産体制の構築
～一代交配蚕種普及団を中心に～」
 - (3) 森 宏 (研究参与)・三枝 義清
「食料消費のコウホート分析
—伝統的ミクロ経済学との関連において」
 - (4) 榎 透 (所員) 「『君が代』ピアノ伴奏拒否事件に見る思想・良心の
自由と教育の自由」
 - (5) 桑野 弘隆 (所外研究員) 「アルチュセールとプーランツァスの国家論における
差異について」
 - (6) 小林直樹 (研究参与) 「『法の人間学』をめぐる若干の問題
—佐藤説子教授の提起に依って」
 - (7) 高木 康一 (所外研究員) 「リスボン条約とアイルランドにおけるレファレンダム」
 - (8) 梶原 勝美 (所員) 「ブランド・マーケティング体系 (Ⅶ)
—商品分類からブランド分類へ—」
 - (9) 福島 義和 (所員) 「リーロン地区の再開発事業にともなう人口移動と
上海大都市圏の拡大 (その1)」

【研究ノート】

- (1) 藤本 一美 (所員) 「世界の一院制議会 (Ⅱ)
—ニュージーランド議会における上院廃止」
- (2) 黒岩 俊郎 (研究参与) 「産・官・学を経験して」

5. 「専修大学社会科学研究所叢書」刊行について

第12巻『周辺メトロポリスの位置と変容』(宇都榮子・柴田弘捷 編)が2010年3月27日に専修大学出版局より刊行された。

- 「産業構造の転換と川崎の都市開発—郊外化から再都心化の時代へ—」…… 今野 裕昭 (所員)
- 「川崎市内産業・従業者特性と住民の性格」…………… 柴田 弘捷 (所員)
- 「戦前期川崎市における社会事業の形成展開—川崎社会観の活動を中心に—」
…………… 宇都 榮子 (所員)
- 「アジア都市川崎の多文化・他民族経験」…………… 広田 康生 (所員)
- 「堺と川崎の防災まちづくりを考える
—堺市湊西地区と川崎市多摩区中野島町会における「結果防災」をめぐる—」
…………… 大矢根 淳 (所員)

6. 研究所の運営

所員の総意のもとに、各所員の積極的な参加を活力にして、本研究所を民主的に運営し、社会諸科学の総合的研究を推進していくために努力している。所員の意見・希望等に積極的に応えている。

7. その他の活動

1. 文献資料の収集

- (1) 社会科学分野にかかわるリファレンス資料に相当するもの（辞書、統計、白書、年鑑等）の収集に重点を置くという方針に基づいて、文献資料を収集。
- (2) 年度当初から文献購入希望を募り、予算枠を考慮しつつ、随時購入。
- (3) 社研プロジェクト「中国社会研究」の一環としておこなってきた中国経済・社会に関する文献収集に関しては、範囲を拡大して「東アジア社会研究」として継続して実施している。

2. 文献資料の整理、配架

- (1) 文献資料の検索は「図書カード」によるものとして、収集した文献の整理を行ない、その電子化にむけた作業も実施している。
- (2) CD-ROM 版の文献資料はロッカーに別途保管する。
- (3) 図書館と重複して購入している和雑誌に関しては、書庫が手狭になったため（直近数年分を除き）廃棄処分とした。なお、廃棄にあたっては、希望者が対象雑誌を持ち帰りできる期間を設けた。今年度については7月26～30日に頒布会を実施し、その便宜を提供した。

3. 文献資料の公開

「文献ニュース」を社会科学研究所のホームページに掲げ、2009年度に収集した主な文献を中心に新着情報を提供した。

4. ホームページの充実

(1) ホームページの充実

ホームページのさらなる充実をすすめてきた。論文を読みやすくするために、論文単位のファイル化、抄録の作成、問い合わせ先の追加などを検討している。

(2) 電子メールの活用

電子メールを活用して、通信業務を効率化する。2007年度より開始した所員に対する案内等の電子メール化を継続した。ただし、郵送の必要なもの（例：委任状など）や、電子メールに対応していない所員に対しては、引き続き郵送とした。

(3) コンピュータシステムの充実

社研神田分室のパソコンを更新した。ただし、インターネットとの接続が困難なので、現在まで接続されていない。その旨、あらかじめご理解の上、利用していただきたい。

(4) CD-ROMの利用環境の整備

(5) 図書館と協議し、月報・年報の専修大学学術機関リポジトリへの登録準備を進めてきた。